

平成21年度第9回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日 時：平成21年10月19日（火）午後2時30分～午後4時00分

場 所：公立大学法人熊本県立大学大会議室

出席：学長	米澤 和彦
副学長	古賀 実
事務局長	富永 安昭
文学部長	三木 悦三
環境共生学部長	大和田 紘一
総合管理学部長	松岡 泰
地域連携センター長	篠原 亮太
学術情報センター長	山田 俊
文学研究科長	半藤 英明
熊本県公立高等学校長会会長	石井 博憲
熊本近代文学館館長	河原畑 廣
和洋女子大学学長	坂本 元子

オブザーバー：アドミニストレーション研究科長 石橋 敏郎

事務局：三角事務局次長、井上学生サービス担当次長兼教務入試課長、馬場総務課長、高橋学生支援課長、田中学術総合メディアセンター事務長、教務入試課林田教務班長、教務入試課安達入試班長、教務入試課澤田参事

1 開会（進行：三角次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：米澤学長）

（1）審議事項

① 平成22年度入学者選抜における合格者決定について

・環境共生学部自己推薦型入試

事務局から、資料1-1に基づき、「環境共生学部自己推薦型入試」については、10月10日、11日にかけて実施した。新型インフルエンザの対応として翌週に追試験を設定していたが、当日は志願者全員が無事受験した。募集人員は環境資源学科4名、居住環境学科4名。試験に関しては、環境資源学科では、環境に関する小論文、小論文に対する口頭試問と面接をそれぞれ行い200点で採点された。居住環境学科は、あらかじめテーマを示されており、それに対するプレゼンテーション資料を作成してもらい、当日プレゼンテーションをして、プレゼンテーションに対する質疑応答

と面接で200点で採点された。志願状況は、環境資源学科は、志願者数30名で、昨年の17名に比べ、大きく増加している。県外の受験生、女子の受験生が増えている。居住環境学科は、志願者12名で、昨年の16名に比べ減少しているが、県外の受験生は増えている。10月13日に環境共生学部教授会が行われた。」との説明があり、続けて大和田環境共生学部部長から、資料1-2（会議後回収）に基づき、「県外にも盛んに学校訪問をしていることもあって、ある程度学生が来てくれた。新型インフルエンザの患者がいなくてよかった。環境資源学科は小論文を課し、10日に実施。11日に2段の面接を行った。小論文の内容について口頭試問をし、別のグループの先生に面接をしてもらった。30名が受験し、定員4名のとおり合格としたい。居住環境学科については、12名受験があり、プレゼンテーションの後、口頭試問を実施した。全体を100点満点としている。定員どおり4名までを合格としたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院文学研究科（博士前期課程）秋季募集

事務局から、「大学院文学研究科（博士前期課程）秋季募集」について、資料2-1に基づき、「大学院の入試は春の時期と秋の時期の2回に分けて募集している。今回は秋季募集である。10月3日土曜日を実施した。新型インフルエンザの対応として翌週に追試験を設定していたが、当日は志願者全員が無事受験した。日本語日本文学研究科の秋季募集は3名。合格基準については、各研究科毎に募集要項に明記している。出願状況に関しては、昨年度よりも若干少なくなっている。英語英米文学専攻については、志願の状況は今回2名であった。」との報告があった。続けて半藤文学研究科長から、資料2-2（会議後回収）に基づき、「日本語日本文学専攻博士前期課程には、一般選抜に1名が受験。専門の試験100点満点、面接試験は、研究の内容、計画性などを質問して評価する試験を30点満点で行った。結果、合格基準の6割を超えることから合格とした。外国人留学生特別選抜には、1名の受験があった。日本語の能力を試すようなものを含む専門試験100点と、面接試験30点満点で評価した。専門試験が合格基準に達しておらず、不合格とした。専門職業人特別選抜は、職業について専門的な仕事をしている人が対象で、1名の応募があった。面接点300点で審査をした。内訳は基礎学力100点、意欲100点、研究の計画性100点で評価した。いずれの成績も合格基準を超えており、合格とした。英語英米文学専攻修士課程の一般選抜については、2名の受験があった。専門試験は300点満点。面接が100点満点で評価した。いずれも合格基準の6割を超える成績であったので受験者2名を合格とした」

審議の結果、案のとおり承認した。

・大学院アドミニストレーション研究科（博士前期課程）秋季募集

事務局から、「大学院アドミニストレーション研究科（博士前期課程）秋季募集」について、資料3-1に基づき次のとおり説明があった。「大学院の入試は春の時期と秋の時期の2回に分けて募集している。今回は秋季募集である。10月3日土曜日に実施した。新型インフルエンザの対応として翌週に追試験を設定していたが、当日は志願者全員が無事受験した。8日に研究科委員会で審査された。他の研究科と異なり、募集人員を春季と秋季で区分せず合わせて20名としている。合格基準は総得点が総点の6割を満たす者であるが、極端に得点が低い科目がある場合は不合格となる場合がある。また、総得点が6割に達していなくても、特に優秀な科目があれば合格とすることもある。今回志願者が9名、受験者が9名であった。」続いて石橋研究科長から、資料3-2（会議後回収）に基づき、「一般選抜は、学部から受験する場合は、英語が2種類と専門の論文試験があり、かなり厳しい試験になっている。1人の受験があったが、合計点が6割に達せず不合格となった。社会人特別選抜は、6名のうち4位までの方は合計点が6割を超えており、合格とした。外国人留学生特別選抜は2名の受験があり、1名のみが合格基準を満たし合格とした。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

②教員の採用について（文学部）

文学部の教員の採用について、事務局から資料4-1に基づき、これまでの経緯について説明があり、続けて古賀副学長から「10月5日に全学資格審査委員会で、業績等を審査して、文学部から提案のあった方は准教授として適当であると判断した」との報告があった。続いて三木文学部長から資料4-2（会議後回収）に基づき、「7月10日に公募を閉め切って、62名の応募があったが、最終的に3名に絞り、9月に面接を行った。五島慶一氏は、現在慶応義塾志木高等学校で教諭をしている。芥川龍之介を専門にしておられ、博士論文に向けて芥川龍之介の論文をまとめている段階である。熊本との関わりは夏目漱石で、着任後は地域の研究に積極的に携わりたいとしている。非常に手広く研究されていて、研究の領域を広げておられる。文学部としては、五島慶一氏を採用することとしたい。」との説明があった。

審議の結果、案のとおり承認した。

③授業料未納に伴う学生の除籍について

授業料未納に伴う学生の除籍について、資料5（会議後回収）に基づき、審査対象学生について次のとおり説明があった。「平成19年度入学で、2年から3年の進級の際に留年している。今年度第1期分の授業料が未納となっている。成績不振による個別指導の対象者であり、2年目の前期からはほとんど大学に来ていないことから、授業料の督促とは別に、居住環境学科の教員が何度もコンタクトをとっていたが、とうとう来なかった。ま

た、事務局からも何度も連絡をとったが本人と連絡がとれなかった。今般、母親から本人が大学に行く意思がないということと、経済的に苦しく授業料が払えないので、除籍してほしいという申し出があり、9月28日の教授会において除籍やむなしとなった。本日承認をいただいたら、学長に決裁をいただき、第1期の7月末日をもって除籍とすることをしたい。」

審議の結果、案のとおり承認した。

(2) 報告事項

・平成21年度教員免許状更新講習の実施結果について

平成21年度教員免許状更新講習の実施結果について、資料6に基づき事務局から次のとおり説明があった。「来年度に向けて検討していたが、政権交代もあり、本来ならば来年度の通知が文科省から来ている頃であるが、まだ通知がない。新聞には、文科省は平成23年度から廃止の方向などという記事も出ているが、新聞社によって報道内容がまちまちである。民主党のマニフェストには教職課程の見直しも考えるという記載もあり、現行の講習の行く先も不透明な状況である。熊本大学の担当者を通して文科省に状況確認等をしてもらっているが、省内でもはっきりとオーソライズされた方針ではないということである。

本年の実施状況は、8月17日から25日まで15科目の講習を実施した。実受講者数で290人、延べ475人が受講した。すでに履修の認定を終えており、全員が認定され、認定率は100%である。定員に対する受講者の充足率は、必修領域が48%でやや苦戦したが、選択領域は充足率84.2%、トータルで73.1%であり、目標の7割を達成した。熊本県内では、高等教育コンソーシアム熊本で連携して講習の開設を行った。参加している大学の状況を見ると、本学は必修領域が平均よりも充足率がやや低かったが、選択領域は平均を上回っており、合計は、唯一の幼稚園教諭向けの講習を行った九州ルーテルに次ぐ非常に高い充足率となっている。

3ページは、本学の講習別の取りまとめである。収支に関しては、必修領域等一部の講習で充足率が目標に満たなかったが、全体としては支出を工夫して138千円の黒字であった。

アンケート結果については、「講習の内容や方法」「最新の知識・技能の習得」に関する総合評価はおおむね7割が肯定的な評価であった。自由記述では、制度に対しては反対だが、講習そのものはとてもよかったという意見や、真夏の実施ということもあり、空調に関する意見や、鳥の糞についての意見などがあった。」

4 その他

三木文学部長から、文学部フォーラムの紹介があった。「11月21日土曜日県立大学の大会場で、午後に開催する。講師は武村和子お茶の水女子大学大学院の先生。テーマは

「ことばと身体」ということで、さまざまなパネリストを招いて実施する。ふるって参加してほしい。」

事務局から次回の日程の確認があった。11月16日（月）午後2時半～

5 閉会 16時